

2016年6月度キャンサーボード教育講演トピックス

① Hodgkin リンパ腫とは

HRS(Hodgkin Reed-Sternberg)細胞や LP(Lymphocyte predominant)細胞という、B 細胞由来の腫瘍細胞が増殖する悪性リンパ腫の一つであり、

- 1) 結節性リンパ球優位型 Hodgkin リンパ腫(NLPHL)4.1%
- 2) 古典的 Hodgkin リンパ腫(結節効果型；若年 57.9%、混合細胞型；高齢 28.8%)などに分類される。

② Hodgkin リンパ腫の疫学

悪性リンパ腫の 10%、10 万人に一人の罹患で、2005 年以降緩徐に増加傾向にある。20 代と 50~60 代に二峰性にピークがある。

③ Hodgkin リンパ腫の症状

無痛性頸部・鎖骨上リンパ節腫脹、B 症状（発熱・寝汗・体重減少）、皮疹・皮膚掻痒症、縦隔リンパ節腫脹（NSCHL の 60%）などがある。

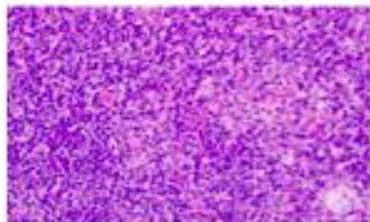
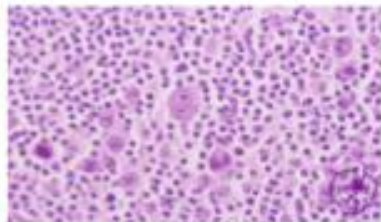
④ Hodgkin リンパ腫の診断

Hodgkin リンパ腫と診断するには病理診断が最も重要であり、未分化大細胞型リンパ腫、縦隔原発 DLBCL、高齢発症 EBV 陽性 DLBCL、T 細胞/組織球豊富 DLBCL と鑑別を要する。

PET/CT 検査が普及しており、診断に寄与している。

（血球減少のない限局期の症例では骨髄生検はステージングに必須ではない）

ステージ	基準
I 期	リンパ節領域 1 か所のみ
II 期	横隔膜の同じ側の 2 か所以上のリンパ節領域
III 期	横隔膜の両側のリンパ節、脾臓、またはその両方
IV 期	リンパ節外の浸潤（例、骨髄、肺、肝臓）

	1) NLPHL	2) cHL
細胞形態	LP細胞 (popcorn)	Hodgkin細胞-単核 RS細胞-2核、
細胞表面抗原	CD15-20+30-45+	CD15+20-30+45-
B細胞転写因子 (PAX-5)	陽性	陽性
		

⑤ Hodgkin リンパ腫の治療

[進行期]

ABDV 6~8 コース

Bulky disease に対し adjuvant IFRT(involved field radiation therapy)を行う

PR に対して IFRT を行う

Sensitive relapse に自家末梢血幹細胞移植を行う

[治療抵抗・再発例]

自家末梢血幹細胞移植（化学療法感受性再発に有用）

Brentuximab vedotin (抗 CD30 抗体)

Nivolumab, Pembrolizumab (抗 PD-1 抗体)

Gemcitabine, Platinum, Bendamustine を含む化学療法など

⑥ Hodgkin リンパ腫の展望

Hodgkin リンパ腫の限局期患者では二次発癌（非ホジキンリンパ腫、急性白血病、多発性骨髄腫、肺がん、乳がんなど）や虚血性心疾患、甲状腺機能低下症などの晩期障害が増加しており、対策が急務である。

IFRT は2次元であり、今後3次元の ISRT (involved-site radiation therapy)への変更が期待される。

ASCT 前後の Brentuximab vedotin(ESHAP もしくは Bendamustin との併用)の使用が増加している。

Nivolumab の治療抵抗性・再発例への使用が増加している。

自家移植後の再発に対しても以下の展望が挙げられる。

